

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373100258		
法人名	株式会社 コステム		
事業所名	グループホーム あしたりの家(明日香ユニット)		
所在地	〒716-1401 岡山県真庭市五名80番地		
自己評価作成日	平成28年2月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3373100258-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成28年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昔ながらの木造建築で、周囲は田畑に囲まれ、自然環境に恵まれた地に位置し、地域の方と気軽に交流できる開かれた施設、地域福祉の拠点のひとつとして地域に根づいた施設となってきた。併設の小規模多機能事業所と共同で、家族会、花見、クリスマス会、敬老会等を、利用者・家族・運営推進委員会の方・地域ボランティアの方々との交流会を大切に考え実施しています。ボランティアや地域の方の訪問も、中学生から幅広い年齢層の方の来所も増えています。利用者の方が住み慣れた地域・風土の中で安心して生活でき、利用者の方の有する能力を生かしての毎日の生活・その人らしさを大切に生活を支援します。職員も介護のレベルアップを目指し、資格取得や研修の参加に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して14年になるが、その当時からの職員がホーム長を始め3名残っている。2年ぶりに訪問すると英賀ユニットの管理者が退職し、社長の息さんが新しい管理者として就任していた。若手の職員も増え、両ユニットで20代の男性職員が7名もいる。他のホームでは類を見ない比率である。「利用者と演劇をしたい」「シルバー劇団を作るのが夢」と語る若い管理者は、今年の敬老会では自らが脚本を手がけ、利用者と職員が半年前から練習したという「水戸黄門」(喜劇)を披露した。いつか地域へも出かけて講演したいという大きな夢を抱いている。利用者もホームで2名看取り、この1年で半分入れ替わった。特に明日香ユニットは女性利用者は皆要介護1で元気な人が多く、仕事の奪い合い状態だと聞いた。開設当初からの利用者二人もまだまだ健在で、自室がアトリエの人は創作意欲が全く衰えてなく、この夏には文化センターで個展を開催する予定だと聞いた。ここでの暮らしの中で利用者の能力を伸ばし、満足感を与えているホームの取り組み方は素晴らしいと思う。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念 kyongi					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念は玄関と各ユニットに掲示し意識しながら日頃の支援に生かすように心がけている。また、定例の職員会議等で社長以下、職員全員で理念を確認し意識を共有している。	法人のモットーは「笑顔には笑顔が返ってくる」であり、その人らしい生活を利用者にしてもらう為に、現任・新任の職員も、もう一度理念に基づいて振り返りをし、お互いに再認識するように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・ボランティアを積極的に受け入れ、来所者は毎年増え利用者や職員との交流ができています。・地域のイベントに利用者と共に参加し交流している。	ホームのイベントに近所の人たちが立ち寄ってくれたり、中学生の夏ボラへのお礼として利用者が作った雑巾を学校へ持参して喜ばれた。高校生のボランティアの訪問もある。ホーム前の休耕田を利用し、地域交流の一環として今年夏、ひまわり園を公開する予定にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・認知症キャラバンメイトへ登録し地域に向き、サポーター養成講座や勉強会で理解や支援の方法の啓発活動に貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・年6回開催し、意義深い内容になっている。打ち解けた雰囲気でも協議も充実してきている。・会議での内容や意見、助言を大切に考え、職員会議で職員に周知し、サービス向上に取り組んでいる。	通常は水曜日に、隣接する小規模多機能ホームと合同で2ヶ月に1回、市の担当者・地域の人・協力医・家族・利用者等が参加してホームの活動報告・情報交換等や意見交換をしているが、時にはイベントに合わせて開催し食事をしながらざっくばらんに談笑する事もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議、市内のグループホーム連絡会、地域ケア会議等連絡や協議ができています。また、必要時はその都度連絡し、相談にて連携をとっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束についての書籍を読み理解できている。各ユニット会でも勉強している。	安全確保の為止むを得ず、医師に相談し家族の同意を得てベッドに四点柵を使用している人がいる。日々の経過観察を記録し、職員間で共有しながらケアの方向性等を話し合い、身体拘束・言葉の抑止等の研修をして周知徹底を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	・高齢者虐待防止ガイドラインを参考にし、虐待防止の意識を共有している。機会があれば研修したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・「NPOこうけん」の会員に属し、会議や勉強会に参加している。後見業務を担当した職員もいる。・日常生活自立支援事業を利用の利用者があり、関係機関との相談、連携もできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時は時間にゆとりを持って十分な説明を心がけている。改定等のときは分かりやすく表記し説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族の面会時に意見や要望等をお聞きできる機会とし、利用者の声も聞いていただき、それらは月1回のユニット会議、職員会議で周知し反映している。運営推進会議でも報告している。	年3回の花見・運動会・文化祭の行事には家族の参加もあり、親睦を図りながら交流会をしており、実施後に家族アンケートをして意見・要望は運営に反映させている。「あしたり通信」を発行し、利用者に状態の変化があった時は随時、手紙を添えているが、面会時や電話で話し合う事が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回各ユニット会議、職員会議を全職員の意見や提案を聞く機会とし運営に反映している。	日々の申し送りやユニット会議で情報の共有や意見交換をしている。勤務3年以上の若い職員や英賀ユニットの新管理者は各種の資格取得に意欲的に挑戦している。これからは年2回は個人面談をしていこうと取り組みを始めたところである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員の努力・実績・資格等各種手当を付加し給料に反映している。職場環境作りとしてストレスを溜めないように労働時間や福祉用具の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・資格取得に向けた支援(休日付加・合格後の祝い金)や多種類の社内・社外研修会への参加を積極的に支援を行っている。(参加者の勤務配慮や時間調整)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・近隣同業者との職員交流研修を行っている。市のグループホーム連絡会に加入し交流の場になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所前にしっかり情報収集し、本人像を把握する。 ・入所後は本人を丸ごと受け入れ、寄り添い傾聴し、安心出来る生活の場として受け入れていただけるように、余裕のあるケアで関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・十分に情報をいただき、家族の思いをしっかりと聞く。その上で優先するケアを相談し確認する事で安心していただく。 ・いつでも気軽に相談していただける関係作りを伝えて思いを共有する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・これまでのサービス利用の経緯や家族の思いを聴いた上で、優先するケアを相談し確認する事で必要なサービス提供へとつなげていくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者の能力を勘案し、自立と自律を支援する。 ・人生の先輩として敬い、能力や知恵を借りることで生活を共にしている思いを感じ共有していく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族の面会の機会を大切に。お互いの情報を交換し、共有する。 ・毎月の便りで近況をお知らせしている。 ・写真入りの特別号も発行して家族に届けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ボランティアをはじめ来所の方が馴染みの方であれば、会話等の機会を設定している。 ・地域の方に援助していただきサロンに参加していただいている。	月1回隣接の小規模多機能ホームで開催している地域の人のサロンには利用者のよく知っている人の参加もあり、そこでの交流がある。認知症カフェに行くと馴染みの人に出会えたり、買い物に行った先で知人に出会い話をする事もよくある。それぞれの馴染みの関係を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者の性格や相性を把握し、良い関係作りに努めている。 ・利用者同士の声かけや誘導を薦め支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所時にはいつでも相談や支援に協力できる用意があることを家族に伝えている。 ・他施設等に移られる祭には、きちんと情報を伝え、安心できる次のケアにつなげている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人ひとりの声に耳を傾け、受容した上で適切な支援に努めている。 ・趣味や習い事も地域の方の協力もあり、できる限り支援している。 ・困難なときは利用者の行動にあわせている。	自室がアトリエになっている人にとっては、趣味の絵画制作を支援してくれ、自分を伸ばしてくれていることでの生活が満足感を与えてくれているし、職員も「どう暮らしていきたいか」等の一人ひとりの思いを聞き取りやすい環境作りに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所時をはじめ継続して家族等・関係機関からの情報収集に努めている。 ・利用者本人からも通常の会話のなかから聞き取り確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・職員は一人ひとりを把握し情報を共有し、利用者の能力を活かすように努めている。 ・レク等の参加に声かけ、誘導の祭は本人の意思も確認する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・毎月のユニット会で課題提供やケア内容の検討をし、計画作成や見直しを行っている。 ・本人からの意向を確認している。家族にはできる限り面談で意向を伺うようにしている。	プランには本人・家族の意向が詳細に記載しており、意向に添った目標設定と支援内容を職員間で話し合いプランを作成している。6ヶ月毎にモニタリングをし、定期的又は随時、現状に則したケアプランへの見直しを行っている。	ケアプランの目標や支援内容は抽象的な言葉、例えば「安らかに」「穏やかに」等ではなく、出来る限り具体的なことを客観的な言葉で表現していく方が良い。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の記録は利用者の生活の様子が分かりやすい記入に努め、各職員が目を通している。 ・日々の個人記録とは別に気づき、連絡ノートを用意し情報を共有しケアのに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人、家族の状況に応じて受診、外出の援助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・運営推進会議では地域の情報や、支援に関する情報をいただき、サービス向上に努めている。 ・ボランティアの定期訪問も定着している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人や家族の希望するかかりつけ医に定期受診をしている。職員が通院支援をしている。往診も毎週1回来てくれる。 ・運営推進会議にかかりつけ医が毎回出席していただき、安心できる連携ができています。	従来のかかりつけ医を受診している人は4名、その他の人は協力医が主治医になっており、週1回の往診がある。家族の中には足が立つ間は連れて行きたいという思いで、馴染みの医療機関に行っている例もある。管理者(看護師)が日々の健康管理をしているので安心できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・看護師が常勤で勤務しており、介護職員は随時相談ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・近距離にある協力病院があり、相談をし紹介入院できる。面会もでき、病院の職員とも連携をとり必要時はカンファレンスをし、情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・本人や家族の意向を伺いながら、医師や職員が連携を取っている。 ・家族に終末期の「看取り」に関する意向確認書をいただき、必要時は再確認をさせていただく。希望があれば、ホームでの看取りもさせていただく。	この2年間で各ユニット1名ずつ、2名の看取りをした。主治医と連携を取りながら、訪問看護と看護師である管理者とが点滴をしてホームで最期を看取った人は、後見人、職員が葬儀に出席し、本人の好きだったキャラメルをいっぱい入れて見送った。今後も本人・家族の希望があれば出来る限り支援していこうと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・消防署の救急救命士から救急法の指導していただいた。今後も受講を考えている。 ・職員間の緊急連絡網は整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・消防署立会い指導のもとに年2回(春・秋)の避難訓練を実施している。夜間を想定した訓練も実施している。近隣、地元消防団との協力体制を整えていきたい。	社長のアイデアで利用者手作りの人形の裏に名前を書いたものが各居室の入り口に掛けてある。災害時に首から下げて避難することで、避難済みであることや利用者の名前が分かるようになっていく。すぐ持ち出せる避難用のリュックも各居室に備え付けている。	火災も心配だが、これからは地震等の対策も必要だと思う。地震時の展示品・掲示物の落下による怪我や家具の転倒を防ぐ対策を考え、日頃から地震等の訓練や安全対策を話し合って欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりを理解し、尊重した対応に努めている。 慣れてくると言葉遣いが馴れ合いになりやすいので気をつけている。 	各居室にトイレと洗面台があり、プライバシーは守られている。更衣時には必ず声をかけ、居室のドアを閉めるようにしている。男性職員でなく女性職員を希望する人には羞恥心に配慮し、同性介助をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> 声をかけて本人の意思を確認している。 状況によっては、一人ひとりに個別に確認をしている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> 家庭的な環境を大切にして、その人らしく生活をしていただいている。 居室に閉じこもりにならないように声かけをし誘導もしている。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 2ヶ月に1回近所の理髪店に来ていただき散髪をしている。 季節ごとに衣類を整理し、気候に合った着衣が出来るように支援している。家族の方に連絡をして持参してもらう。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> 職員も一緒に食事をして、会話の中で好みなどを聞いている。野菜の下ごしらえや配膳、下膳を手伝ってもらっている。 	給食委員が献立を作り、隣接するホームの調理専門の職員が作っているが、週3日は両ユニットの厨房で職員が手作りにしている。今日も「ごぼうのささがき」をする人や盛り付けをする人等、お手伝いをしてくれる人が多く、皆さん楽しく働いていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの水分、食事量、排泄量をチェックして、体調と摂取量を把握し、適切な支援に努めている。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの状態に合わせて口腔ケアを行っている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表で排泄リズムを管理し、適切に声かけや誘導をしている。トイレでの排泄を心がけて、トイレに座位となってもらう。失敗やおむつの使用については、職員間で検討しながら適切な支援に努めている。	布パンツの人が半数近くいるが、夜間のみ紙パンツ対応もある。トイレ座位を基本としているが、男性利用者の中には立位で排泄し、これまでの生活習慣を継続する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分摂取量の管理、運動のすすめ等。また、排便間隔のチェックをし、下剤でコントロールをする事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・2日に1回の入浴を基準に行っている。特に希望があれば、毎日でも受け入れ支援している。時間は定着しているが順番は希望にあわせることができる。	予定表を作成しているが、その日の体調や気分によって臨機応変に対応し、夏場は日曜日以外、毎日入浴している。入浴拒否の人には、職員のあの手この手の工夫で対応しているが、入ってしまうと今度は1時間も出ない人がいる。菖蒲湯や柚子湯も利用者に喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・一人ひとりの生活習慣を尊重している。午睡は昼夜逆転にならない程度にと、気をつけてしてもらっている。時間を見て夜更かしをしないように声をかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者毎のファイルを作り、職員全員が分かるようにしている。処方変更時は連絡ノートに記載し確認している。症状変化時は医師や看護師にすぐ連絡し相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・生活歴や能力、好きなことについて情報を得て、職員と共にその方に合った仕事や楽しみごとに取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・外出行事、不穩時の散歩、買い物、散歩、ドライブ等の支援をしている。家族の来方時も外出をされる事もある。地域の行事は楽しみにされるので、できるだけ出かけるようにしている。	風呂のない日には遠方にドライブするようしており、花見、ホテル見学、中津井ひな祭り等に出かけている。毎日の散歩コースにある近くの授産所施設に寄り交流をしているが、そこには休憩用の椅子も置いてある。自宅までのドライブ等、個別の外出支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・家族等と相談をし、小額を保持して安心している方もある。本人、家族と相談の上、ホームで管理している方もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・申し出があれば電話をして直接会話してもらっている。手紙等は職員の通勤時に投函の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・家庭的なつくりなので落ち着ける雰囲気が出ている。間接照明で柔らかい照明を配慮している。温度計・湿度計を設置し、毎日測定をして屋内環境を整えている。	リビングには手作りお雛様、貼り絵、塗り絵、ビーズ作品、絵手紙等の作品が展示しており、必ず一つは各利用者の作品を置くようにしている。畳コーナーの炬燵で高校野球中継を見ている男性利用者もいた。天気の良い日は庭に面した廊下や玄関先に椅子を並べて日光浴・外気浴をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・利用者の人間関係を考慮しながら、座る位置や食事の位置を配慮している。共用の畳の場所は自由に利用し寛げる場所となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室の調度品や私物は本人の気に入った物を調達していただき、持ち込み自由になっている。	和室、洋室、夫婦入居用の広い部屋もある。冷蔵庫を持ち込んでいる人や位牌を置いている人もいる。最近入居したばかりの人のドアノブには家でも掛けていたという人形を、ここに早く馴染むようにと家族が掛けている部屋もあった。それぞれの部屋に落ち着いて暮らせる工夫がしてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物内部はバリアフリーであり、ユニット間も自由に行き来出来るようになっている。利用者間で支えあう場面もみられる。個々の能力を勘案して自立支援の配慮をしている。		